

当職場に勤務する女子職員の鉄欠乏性貧血調査状況について
(天使短大・天使病院)

天使女短大 栄養 ○藤本美智子

目的 昭和51年度、厚生省より「貧血予防は正しい食生活から」を標語として、食生活改善及び運動が呼びかけられた。それによると女性の約30%が献血基準値以下の比重であると述べられている。演者はその後天使女子短大及び天使病院に勤務する女子の鉄欠乏性貧血の有無をしらべ正しい食生活運動に徹しながら協力すべく本調査を行った。

方法 血色素量、ヘマトクリット値、全血比重をそれぞれ、シアンメトヘモグロビン法、高速遠心法、硫酸銅法で測定し、年代別、職種別に分類し比較検討した。
シアンメトヘモグロビン法；血液0.020ml, を正確に採り試薬5mlの入った試験管に洗い込み混和、発色反応発結後波長540m μ で分光光電光度計にて吸光度を測定。
高速遠心法；抗凝固剤EDTAにより凝固を防いだ血液0.020ml, を毛細管に採り11,000回転で5分高速遠心機にかけた後血液中に占める赤血球の容積を%で示した。
硫酸銅法；硫酸銅基準液を用いて1.050 ~ 1.061間の比重基準液を作りピペットで全血を滴下して測定した。

結果 当短大(衛生看護学科・食物栄養学科)及び病院は健康と最も関係の深い職場であるという条件下ではあるが測定の結果血色素量、ヘマトクリット値、比重は約300名女子職員の殆んどが正常値をうわまわっているという好成績であった。また血色素量と全血比重の相関係数は0.67であった。